

# rongorongongo

茨城キリスト教大学  
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

## アジアンバザール 今年もご期待ください!!

四年次 戸田亜希子

### ◆人の顔が見える

茨キリ学園祭(11月2日、3日)で毎年恒例となった『アジバザ』を皆様ご存知でしょうか?

「アジアン・バザール」略して『アジバザ』です。簡単に言うとアジアン雑貨、衣類を販売しているお店屋さんです。象さんの小物や刺繍のバッグ、おもちゃやアクセサリーなどを売っています。商品は現地(タイ、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、韓国)で私達学生が直接買い付けしてきたものです。

学園祭出店は今年で四回目。毎回ご来店ありがとうございます。年を重ねると足運んでくれる方が増えてとても嬉しく思っています。今年も新しい商品を仕入れてきましたのでどうぞご期待下さい。

私は今年の夏カンボジアの買出しを担当しました。一緒に行った後輩と「これカワイイから絶対売れる!」「これおもしろいか

ら買ってみよう!」と盛り上がりながら売り子と値段交渉をしました。商品買い付けはとても悩みます。

私はアジバザに05年から参加しているのですが、「こんなのが売れるの?」って思うくらい不思議なものが真っ先に売れたり逆に売れなかったものが残ってしまったり。驚きの連続です。

アジバザをやっている楽しいのは人の顔が見えることです。「この小銭入れはカンボジアのマーケットで

あの女の子から買ったやつだ。誰か買って行くのかな? あ、優しそうなおばちゃんだ。良かったあ」と商品の一つ一つに愛着が湧きます。直接アジアから仕入れてきた商品が日本人の

手元に届く。双方の顔が見られる。なんだかそれが楽しく、嬉しいのです。

商品の値段決め、値札付け、店内ディスプレイまで自分達で行うことは大変ですがとてもやりがいがあります。

### ◆アジアン・カフェ

学園祭では雑貨だけでなく、「アジアン・カフェ」も魅力の一つです。ベトナムコーヒーや柚子茶(韓国)、お湯を注ぐと花が開く工夫茶(中国)などアジアの香り漂う喫茶店で足を休めることもできます。一



**\*求人\***  
学園祭でのショップ店員、カフェ店員を募集しています。アジア雑貨が好き、学園祭当日暇、面白そう...など、どんな理由でも歓迎します。現地買出しをやってみたい方もご相談下さい。興味を持たれた方は左記までご連絡を。

学園祭準備を始めます  
10月18日(木) 昼休み  
今年の顔合わせをします  
3号館5階藤田研究室へぜひお越し下さい  
連絡: can@hotmail.co.jp

## ボランティアレポート／カンボジア

今年も「カンボジア日本友好学園」にて「日本語・英語教育ボランティア」を行いました。学生参加は十一名でしたが、ここでは文化交流学科の三名のレポートを掲載します。別途「ボランティア・レポート」を作成する予定です。

### この経験は一生の宝物です

一年次 鈴木麻由

#### ウルルン滞在記!!

このプログラムへの参加が決まった時とにかく胸が高鳴った。私は入学前からこのプログラムに憧れていた。青年海外協力隊やNGOに漠然と興味をもって

いて、海外で日本語を教えることに強い憧れを抱いていたからだ。カンボジアの

農村という場所も、ウルルン滞在記みたいで最高だなあと思った。

カンボジアへ行ける、大陸の空気や空の色を感じる

ことができるんだ、アジアのど真ん中へ行けるんだ! 行きたい! 行ける!! 早く行きたい!! という気持ちばかりが先行し、ワイルドすぎ

るサバイバル用品を買い集めた。旅先の会話帳と言われるものは一冊も持たないという変な状態で旅が始まった。

#### 期待と不安

私は大学の先輩の亜希子さんと一緒に8月10日に夕

店内では同時に「カンボジア日本語・英語教育ボランティア」の紹介パネルを展示してありますので元気づけたいのカンボジアの子供達を見に来て下さい。

イから陸路でカンボジアに向った。バックパッカー二人組みは、国境の街ポイペトからフロントガラスにヒビが入ったタクシートの助手席に詰め込まれ、アンコールワットの街、シエムリアップを目指した。悪路をひたすら走りながら見た、

2面につづく



### 07年10月号目次

- ◆ 1面 今年もやります!! アジアンバザール
- ◆ 1~4面 アジアンボランティア報告
- ◆ 3面 読者からの感想
- ◆ 就職情報inベトナム
- ◆ 4~5面 教員それぞれの夏
- ◆ 6面 中国からの留学生
- ◆ 読者からの感想
- ◆ 7面 夏短期留学(韓国・中国へ)
- ◆ 8~9面 任利先生インタビュー(後半)
- ◆ 上田先生講演会報告
- ◆ 10面 就職活動実況中継(完)
- ◆ 編集後記





どこまでも広がる陸の緑と空の青がとても綺麗だった。タクシーの後ろの座席に乗っていたバックパッカー達の身の上話を聞いていた。日が暮れ始めた。畑の中にポツポツと建っている高床式の小さな家の中にテレビがついているのがよく見えた。こういうところで生きてきた人達にこれから出会っていくんだなあ。期待と不安を感じながらカンボジア初日が終わった。

いで見ていると朝が来たのが嬉しくなってくる。授業が終わって昼からは、各自好きな場所で昼寝したり子供と遊んだりして自由に過ごすか、洗濯や市場での買い物、井戸の水沸かしなどをして過ごした。何をしても過ごしてもとても充実していた。夕食後は明日の授業の打ち合わせなどをする。女性は井戸で水浴び。夜空の下、一日の疲れを冷たい井戸水で一気に洗い流すのはとても爽快で、毎日楽しみだった。井戸で水浴びや洗濯をしながらその日授業であったことや、他愛ないことを話す時間も大好きだった。水浴びのあとは通訳のメンバーも交えてみんなで話し込んだり歌を歌ったりする。いつまでも笑いが絶えなかった。

早く寝て早く起きる。暇なようで忙しく、忙しいようで時間はたつぷりあった。優しい私の先生 途中授業がうまくできないと感じてあげようになつたこともあった。誰かに何かを教えたことがない、自信がない、しかし一緒に授業をやったメンバーや、すなおで真っ直ぐな生徒のお



かげでなんとかやりとおすことができた。 カルタを授業でやったときは生徒達の本当に楽しそうな表情を見ることができ嬉しくて仕方がなかった。「せんせ、せんせ！」といつて自分が取った札を見せてくれた生徒たちはみんな本当にかわいかった。 授業中に生徒達が見せてくれた、慣れない日本語を一生懸命書く姿や、はにかみながら何回も発音してくる姿、教えた単語を覚えて

ようとする真剣な顔を思い出すたび元気が沸いてくる。 彼らと接するうちに心に ついた余分な脂肪が落ちるのを感じた(本当の脂肪もかなり落ちた)。打算や作り笑いを忘れて一緒に笑い合えたのは本当にすてきな体験だと思う。彼らには私が教えた以上にいろんなことを教わった。生徒達はキラキラした優しい私の先生だ。お別れ会で生徒の女の子に「あなたの妹になりました」

一緒に食事もしたし、時々まじめな話もした。とびつきり親切でやさしい彼らには感謝しつくせない。 一生の宝物 40日間旅行したが毎日新しい発見の連続で飽きる事が一日もなかった。 この旅行を無事に終えられ、貴重な体験ができたのはたくさんのおかげだ。先生方やへっぽこな私を支えてくれたメンバーのみんなに本当に本当に感謝しています。この経験は一生の宝物です。ありがとうございました。 不思議な感覚 まずタイ北部の町チェンマイを訪れ、学園祭での「アジアンバザール」の買出しを済ませた。それからバンコクへ戻り、一路アンコールワットのある街シエムリアップへ。タイからカンボジアへ国境を越えるとなぜか故郷へ帰って来た様な不思議な感覚があった。 シエムリアップへ着くと、初めて訪れた時の友人が迎えてくれた。お互いの下手な英語や、それを補うためのジェスチャーに懐かしさを感じた。

## 電気も水道も無い暮らしも悪くない

五年次 田中悠介

三度目のカンボジア 「日本でチャラチャラ遊んでないでカンボジアに行きなさい。」二年前、あるいはそれ以前の私に直接会うことが出来るなら真っ先にこれを伝えたい。 私がカンボジアを訪れるのは今年で三度目になる。 タイの首都バンコクから陸路で国境越えというコースを辿った。毎年夏にどこかへ出かける際には30日チケットを買う。しかし、今年

という事で少し長めの43日のものを選んだ。7月28日に出発した。三度目ではあったが旅に対する不安はあった。今までと異なり、私を不安にさせたのは「一人旅」という事実だったのかもしれない。しかしそんな不安は時間とともに薄れ「一人でいる方が色んな人と話すきっかけを作るのは簡単だな」と思うまでになった。もちろん寂しいと感じる時もあることは否定できないが。



「やりがい」「面白さ」 私が今回カンボジアへの旅を通して求めていたものは何であったかということ、きつと「人と接すること」や「コミュニケーション」だったと言える。そう聞いて「日本にいてもそんなこと出来るだろう」と言う人もいるかもしれない。しか





し一体「コミュニケーション」や「人と接すること」など、それらの中で「言葉」が占める割合はどれくらいなのだろう。私自身なぜだか理由はわからないのだが、言葉が通じなければ通じない状況である程私は燃えてくる。必死になって伝えることの中に「やりがい」とか「面白さ」を感じてしまう。

### 奇跡の瞬間

のだが、その行為そのものに美しさを感じるだけでなく、その最中に私は最も「自分が生きていくような感覚」を得る。自分と誰かが出会う場面はまさに奇跡の瞬間とも呼べる。人間が80年生きるとしたらその中で幾度その奇跡を経験するのだろうか。そう考えるだけで生きていることに感謝しなくなる。

### 発音の正確さ

とても難しく思えた。とても難しいのは手拍子を打つことが難しいのではなく、一つの発音に正確さが求められるからだ。文章になっていたり、会話の際であればジェスチャーを使ったり、もしくは文脈から判断するなど、その単語の意味が何なのかという手がかりが様々な形で存在するが、授業の中ではそれがフラッシュカード(dogなら犬の絵が描いてある)と先生たちが発している「dog」という音だけなのでそういう手がかりになる要素が少ない。少なれば少ない程その少ない要素である犬の絵や発音の正確さが求められる、という認識しやすいためである必要があるのかもしれない。私たちの授業の中では先生が三人



同じ意味の単語をまるで違うように発音していたら生徒たちは混乱するだろう。そういう点において一番ボロが出やすいと感じたのがゆっくり発音することと単語の集合としての文章を意識して発音することだった。もともと、様々な種類の英語を聞けるという意味では良かったのかもしれない。最後に、電気も水道も無い暮らしも悪くない。目的や夢が無いことに比べればずっと健康的なのかもしれない。二年前カンボジアを訪れる以前の自分は何かに諦めに近いような気持ちで自分自身に対して抱いていた。そんな自分を多少なりとも変えてくれたカンボジアとそこに住む人々に深く感謝している。



### 読者から編集部へ

ロンゴロンゴ面白かったです。

なかでも私は、任利先生へのインタビュー記事が興味深かったです。先生(中国)の視点から見た日本のイメージや、日本人と中国人の価値観の違いを知ることができ勉強になりました。特に信号機や

### 中国の学生の話は日本ではあまりあり得ないことなので驚きました。これを読むだけでも多くのカルチャーショックを味わうことができ、改めて中国を再発見することができたと感じます。

又、「卒業生は今」の記事では、三人の卒業生それぞれの、仕事についての楽しさや大変さを知ることができ面白

### 就職情報

中国の学生の話は日本ではあまりあり得ないことなので驚きました。これを読むだけでも多くのカルチャーショックを味わうことができ、改めて中国を再発見することができたと感じます。

又、「卒業生は今」の記事では、三人の卒業生それぞれの、仕事についての楽しさや大変さを知ることができ面白

# ベトナムで働く

ホーチミンから

就職情報

卒業生・内山由佳子さんに聞いた話

八月から九月にかけてカンボジアに行ってきた(一面「ボランティア・リポート」参照)。今回もホーチミン経由で陸路国境を越えた。ホーチミンでの宿やパスの手配を内山由佳子さんに世話してもらった。ベトナム料理レストランも案内してもらった。

の生活に困ることはない。ベトナム人のボスの下で働くことに意味を見出している。どこまでベトナム社会になじめるか試しているという感じだった。腹が立つことやあきれることもあるのだろうが、それも異文化体験と受け止めれば栄養になるのだろう。

初めて能力さえあれば仕事はいくらでもありますよ」とのこと。日本食レストラン、ホテル、エステ、日本語教師、旅行会社、日系企業での営業職など。ただ、中には要注意の職場もあるらしい。「関心のある人には詳しく説明します」とのこと。

内山さんは、文化交流学科をこの春卒業し、四月からホーチミン市の旅行会社に勤めている。彼女はベトナム人の経営する会社に勤めていて仕事仲間にはベトナム人も日本人もいる環境。収入は日系企業などには遠く及ばないが、現地で

日本人をほしがっている旅行会社などが多い。日系の会社の現地採用なら月収千ドル程度にはなる。これなら何年か働いて貯金をためて帰ってくることもできる。日本語学校もたくさんある。韓国語も人気が高い。「ベトナムの暮らしにな

ちなみに、英語ガイドは一日7ドル、日本語ガイドは17ドル。英語はどこでも学んでいるし、日本人は気がよいし、ということ。現在のホーチミンでは日本語は英語の倍以上の価値があるということのようだ。【藤田】





第1日はまず生徒全員の名札を作り名簿を作成する。クメール語の名前を聞き取り、カタカナで表記するのはけっこう難しい。今年は250人をこえる生徒が参加してくれた。

## 行きたいと思う場所は ひとつでした

四年次 戸田亜希子

二度目のカンボジア

二年前に本プログラムへ参加した時、「絶対また来る」と心に決めていました。大学生最後の夏休み、行きたいと思う場所はひとつでした。「友好学園に行きたい。みんなに会いたい」と二度目のカンボジアへ向けて気持ちは高ぶっていました。

以前と同じルートでタイからカンボジアを目指しました。カンボジアのビザを取得し、入国すると目にす

るのは物乞いをする子供達の姿です。真つ昼間に子供が子供を抱えて「ワンダラー、ワンダラー」と私の服を引っ張ります。川には相変わらず大量のごみがあふれ、そこで遊ぶ子供達の服はぼろぼろ。ここには二年経っても変わらない現実がありました。私は彼らを見つめ、忘れないでいることしかできません。

大好きな風景、友好学園へ  
プノンペンでボランテ

イアメンバーと合流し、友好学園のあるリング村へ向かいました。水やパンなどの買出しを済ませ、メコン川を渡り国道一号線を走ると、懐かしい大好きな風景が広がってきました。どこまでも広がる空と地、水、動物が一体となつている景色に思わず顔がほころびました。

二年前は今回のように国道一号線を走っていた時、車が故障してしまいドライバーが修理をするというハプニングがありました。車が直るまで私は漁をする人を見ていたり、魚を釣ろうとしてみたりとゆったりと過ごしました。今回もこのような足止めをこつそり期待していたのですが、残念ながらも起こりませんでした。実際、エンジントラブルはありましたがドライバーが力ずくで車を進めてしまい、外でのんびりする暇もなくすんなりと友好学園へ到着しました。

教える側、教わる側という枠組みを越えて5時に起きて7時から授業開始という生活が始まりました。自分でも情けないほど初日の授業はあたらふた分ができません、授業の進め

方が下手、内容が難し過ぎる、など反省点はとてもたくさんありました。しかし一緒に授業をする仲間と毎日話し合い、工夫を重ねる度に反省点は減りました。今年も三人組みだったので自分のクラスに余裕があるときは他のメンバーのクラスを見学しました。「あ、この内容楽しそう。〇〇ちゃんはずっちゃんやけるな」と授業内容やメンバーの意外な一面を見ることができました。

私達のクラスは二週目に「幸せなら手をたたこう」を教えました。三人で何度も歌い、徐々に歌える子も出てきました。ごによごよでしか歌えない子も、①幸せなら手をたたこう(パンパン)、②幸せなら足ならそう(ドンドン)、③幸せなら手をたたこう(手をつなぐ)の( )の動作部分はみんな張り切つてやってくれました。張り切りすぎて「手をたたきすぎて痛いよー、足もドンドンやりすぎて痛いよー」と言う悲鳴も聞こえてきました。元気がいっぱいなのに、彼らは楽しくて仕方がない様子でした。みんなで歌い、みんなで手をつないだ時、とても感動しました。教える側、教わる側という枠組み

を越えて彼らと一つになれたような気がします。友好学園での生活はあつという間でした。通訳として授業を手伝ってくれた学生達と毎日たわいもない話をしを笑ったこと、放課後遊びに来てくれた生徒達といつまでも手遊びをしたこと、市場までの道でバイバイと手を振ってくれる子の多さ、空一面に輝く星を見て動けなくなったこと。カンボジアに來なければ知ることのできなかったことや触れることのできなかったことがたくさんあり、カンボジアに來られて良かったと心から思いました。

このような機会を与えてくれた藤田先生、「いつてらっしゃい」と送り出してくださいます。



## 大瀑布

齋藤聖二

ラオスの大瀑布

文化交流体験の打ち合せのために、九月に入ってからバンコクに行った。向こうの旅行社と計画を練つて、何とかかなるかなという形はできた。あとは参加学生次第。うまくいきますように。パンパン。

そのあと、ラオス南部に向かった。二日かけて超の付く僻地にたどり着く。見るべきものは東洋のナイアガラ、メコン河の大瀑布。もちろん、すごかった。雨季のため、日に一度は風呂桶をひっくり返したような雨が降る。それを集めたメコン河は、ほとんど常時洪水状態の泥色の濁流。流れも速い。その三百mの河幅全部、複雑に入り組む岩場を、十五mドドドツと真下に落ち込む。滝というより、何というか、台風の時防

波堤に碎ける波を逆に見ている感じ(笑)。飛び散る水量があんなふうだ。それが三百m。怖いほどの地響き、泥の飛沫にかかる無数の虹。

滞在した村は、電話もなく、ネットもできず、電気が通じるのは夜の3時間だけというのに、おじちゃんが泥道で水牛を曳きながら、ノキアの携帯で話をしていた。坊さんが新品のサイバーショットで僕を撮つて、Vサインしてきた。宿のお兄ちゃんの腕で中国製オメガの時を刻んでいた。その横を子供たちは裸で駆けまわり、村人たちは河の水で一日の汗を流す。世界はかなり急速に隅々まで「面白く」なつてきている。学生諸君よ、そこら辺でぐだぐだ遊んでないで、思い切つて外の空気に浸ることができるよ。自分の色が変わるよ。





志賀市子

## 豚の謎

この夏休みは、タイと台湾に行く機会がありました。タイは、20年前に卒業旅行でネパールに行ったときに、トランジットで3、4日滞在して以来の訪問だったので、あまりにもの変化に驚いたというよりは、ほとんど別の国に来たような印象を受けました。

台湾では、お盆のお祭りを見に行きましたが、神様に捧げる犠牲の豚の大きさとディスプレイのしかたに圧倒されました(写真をご覧ください)。どうやったら豚がこういう形になるのか、最初はとても悩みました。

直径2メートルはある生贄のブタのディスプレイ



# それぞれの夏

文化交流学科の先生方にお寄せいただきました。



至る所に設置された防犯カメラ

細谷瑞枝

## 時間旅行

華々しく世界を駆け巡る文化交流学科教員の皆さんの中で、自宅から百キロ以上遠ざからなかった私……。(その百キロも実は大学へ来たというだけの悲しい現実)

でも、時間的には二千八百年前に旅してきました。そう、前号のロンゴロンゴに書いたように『ローマ人の物語』読み始めました。書評に違わず、面白い！今、2巻の途中だから、まだまだ読める！どこにも行かなくなつて楽しみはあるのよ(ちよつと負け惜しみ)。

堀口悟

## 歴史ドラマ

今年の夏休みは、家族旅行でちよつと沖縄に行った以外は、ほとんど家で研究したり、韓国ドラマを見たりしていました。

日本の王朝文学も専門にしているので、『ホジュン』とか『金尚宮(キムサンガン)』とか、韓国の朝鮮王朝時代の歴史ドラマに興味があります。『ホジュン』は、『東医宝鑑』という大著を著したお医者さんの話で、ちよつと地味ですが、『チャングムの誓い』の男性版という感じです。『金尚宮』の主演は『チャングムの誓い』と同じイ・ヨンエさんで、チャングムとは正反對の意地悪役で出ていますよ。

どちらもストーリー展開が巧みで、つい引き込まれてしまいます。皆さんにも、お勧めです。

その他の活動としては、百人一首かるた競技大会の準備に時間を使っています。今年と来年と、茨城県で「ねんりんピック」「国民文化祭」と相次いで全国的な文化行事が催されます。「ねんりんピック」は(全日シニア文化祭)今年11月の10日(土)と11日(日)に大洗で競技大会が開かれますので、その準備が今、山場を迎えているところです。

森謙二

## 調査の旅

今年は忙しい充実した夏を過ごしました。7月末から中国へ、8月4日に帰国して北海道へ、8月

10日に帰ってから秋田へ、18日のオープンキャンパスに出席して、20日から沖縄・八重山へ、9月3日に帰って4日から九州・中国地方、13日に福岡からそのまま沖縄に行き、台風の影響もあって15日に帰ってきました。

秋田は義父の新盆のために出かけたのですが、それ以外は調査のために出かけたものです。この調査を通じて、考えたことはたくさんあります。八重山・小浜島では、旧盆の行事を見て、盆踊りの意味について考えを新たにしました。このことはすでに21日の民俗学の授業で話しました。

北海道調査でも考えることは多かったのですが、九州の柳川・大牟田では以前から懸案になっていたことを確認することができました。三池藩・柳川藩では、江戸時代の一定の時期以降、戦国時代における岩屋の戦い以降の戦死者を「殿様」が祀っていることです。この調査は福島の手渡藩(現在の伊達市)の藩主の菩提寺・耕雲寺にある「大位牌」を見たのがきっかけですが、いずれの折、講義でもこの話をしたいと思います。

## 物騒な安宿

岩間信之

私のこの夏一番の思い出は香港です。貧乏旅行なので、Chungking House という、バックパッカーには有名な九龍の安宿に泊まりました。「重慶森林」という映画の舞台にもなったところ。この宿は、繁華街のど真ん中に位置する割には、1泊3千円弱とリー

ズナブルです。私は安宿に多少慣れてはいるつもりですが、この宿はシヨックキングでした。雑居ビルの地下と1階は得体の知れないマーケット、4階以上が宿泊施設というこの宿には、至る所に防犯カメラが設置されています(写真)。ビルは老朽化し、迷路のように入り組んでいます。部屋は2畳

程度で窓はなく、ドアは分厚い鋼鉄製。火災が起きたらまず助からないでしょう。客層はバラエティに富みますが、やたらとスラングを話す強面のお兄さんという点で共通します。とても面白い体験でした。後日、香港のガイドブックをみてみたら、このホテルは物騒なので泊まるなど書いてありました。



# いっはちよっとおかしいぞ日本

許挺傑

中国からの留学生という視点から、日本で生活していて感じることは何ですか？というテーマで書いていただきました。

日本に来て、もうすぐ一年半になる。

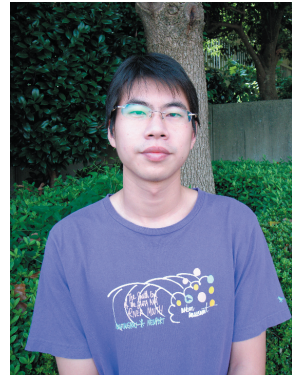
この一年半は今まではずいぶん違う環境で暮らしてきたわけであるが、日本は環境もいいし、人も親切だし、できれば日本に住みたいなど思ったりする。しかし、同時にこれはちよつとなというようなこともしばしばある。

私はただの留学生である、ここでの話は全て個人の意見であることを先に述べておこう。

高校生がアルバイト!?

まず、バイトの話から始めさせていただきたい。

私はアパートのすぐ近くにあるコンビニでバイトをしている。そこで一番驚いたことはというと、コンビニでバイトしている高校生が多いなことである。「〇〇さんは大学何年生ですか」という質問に対しての答えの大半は「いや、あたし(僕)なんか大学生じゃないです、まだ高校生なんです。高一」というようなパターンである。「し



かし高一にしてはずいぶん大人っぽいな」というのは私の真つ先の感想なのであるが、次に来る感想は、「まだ高校生なのに、バイトをするなんてかわいそうだ。だって高校生って目の前に大学の入学試験あるし、バイトは大学に入ってからでも遅くないんじゃないですか」である。

というのは、中国では高校生がバイトをするのはまず考えられない。18歳未満の人間に仕事をさせる大人のこともどうかと思われてしまう。18歳未満の子供に働かせることは、違法行為とはいえないが、人々の頭の中ではそれをかなり違法に近いものとみなすのである。バイトは普通大学に入ってからやるものだというのは今の中国人の発想である。

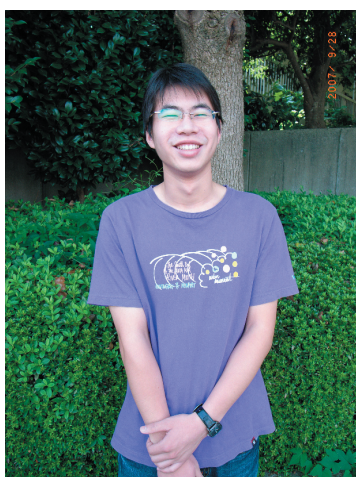
確かにバイトは社会勉強の一種であり、バイトを通して真の社会に触れることができると思う。だからといって、高校生がバイトをするのはちよつと早いのではないかとというような気もする。最近のニュースを見ると、今の日本の大学生の学力が低下というような記事をよく目にするが、バイトのやりすぎもその中の大きな要因ではないかと思う。

一番大きなショック

私はコンビニのほか、自分の大家さんの経営する和食屋さんでもお手伝いをさせていたでている。そこは普通の和食屋さんではなくて、宴会などもよく行われる結構立派なお店である。スタッフはマスター、ママ、厨房のおじさん、ホールのおばさん、と自分の五人である。

私はこのお店で仕事が出てよかったですと思う。というのは、食文化はどの民族にとってもその民族文化の大きな柱であって、食文化

を知ることによって、そこからその文化をのぞくことができるからである。だから、仕事は大変だけど、今でも楽しくやっている。これはなかなかいいお店だなと思う。しかし、この店は中国では絶対につぶれる。そればかりか、訴えられてしまう恐れもある。この店は地域では結構大きなお店で、予約して宴会や飲み会をやるお客さんは多い。各種お祝いから法事まで、地域のありとあらゆる宴会を承る。



しかし、私はまさにこの

お店で日本に来て一番大きなショックを受けたのである。

どう考えてもおかしいべよある日のことである。その日は予約のお客さんが二組もある。まあ、それは普通でしょうと言う人もいるかもしれないが、私も同感である。ただ、その二組のお客さんは、一緒に来ると

絶対にやばいお客さんなのである。というのは、その一組は誰かさんの子供の誕生日お祝いで、もう一組はなんと、お祝いとは正反対の法事なのである。しかもほぼ同時に来店するというふうに予約ノートに書いてある。

これはちよつとまずいでしょうと心の中ではつぶやいておきながらも、実際には何も言えずにただただ黙々と仕事に取りかかる。法事のお客さんにとっては同じ店で誰かの祝いをやるのは平気だろうが、逆

にお祝いのお客さんにとっては、同じ店で誰かの法事を同時にやられていることに気がついていたら、怒らずにいられないだろうと私はすごく心配する。

しかし、事態はまったく私の予想外であった。二組のお客さんは、どちらも平然とした顔でお店に入り、また普通の顔でお店を出る。

よくもそこまで平然としていられたなと思わず感心した。しかし、そのようなことをしたら、中国では紛れもなくお祝いのお客さん

に訴えられてしまう。「お祝いと法事をほぼ同時に同じ店でやるのは、どう考えてもおかしいべよ。まったくお客もお客でお店もお店だ。」なんていうふうに今でも思ったりする。

日常的な風景

最後になるが、バイトの話ばかりして、ちよつとまじいなどと思う。なぜなら私は留学生で勉強のために日本に来ている。バイトの話ばかりすると、自分が誰かに疑われてしまいそうなのがするからである。だから、最後の大事な締めくくりとして学生の本業、勉強の話をして少しさせていたきたいと思う。

日本のほかの大学はどうなのかはわからないが、少なくとも、自分が今いる大学の学生たちは、ちよつとのはんびりしすぎているのではないかと思う。

私が四年間いた中国の出身大学は、全国の大学の中では、決して有名な大学とはいえない。学生も決して勤勉とはいえないが、みんな学生の顔をしている。みんな何かを勉強したいというような目をしている。私もそういう環境の中で、周りの友達に引つ張られて結構頑張ってきたつもりで

ある。朝早起きして、キャンパス内の小さな公園で英語を朗読したり、夜10時までずっと自習室で粘ったりするのは日常的な風景である。

しかし、そのような風景も一年半前に見たきりである。

(きよ・ていけつ) 文化交流学科 三年次

読者から編集部へ

ロンゴロンゴいつも楽しく読ませてもらってます！今回一番読んでいて為になったのが、文化交流学科の先輩の就職後の話です。

実際、今自分がいるこの学科からどんなところに就職出来て、どんな職種があったのかなど、よく考えてみると疑問が多いし不安もだいぶあります。

でもこんな風に先輩方の生の話を載せてくれたら、こんな将来もあるんだ！と考えが広がってやる気も湧いてきます！

実際作る側はインタビューをしたり撮影をしたり大変だと思いますが、他の記事も文化交流学科ならではの話題なので、文化交流学科の学生にとって必要な情報もたくさん盛り込まれているロンゴロンゴをこれからも応援します！

二年 梶山真矢



トイレの鍵が！

私にとって初の海外である中国は、カルチャーショック連続の旅であった。中国に着いた初日は、中国と日本を比較し、なぜ中国と日本は違うのだろうか、私には、このギャップをとっても受け止めきれない、と思った。どうすればいいのかわからなく、困惑した。

トイレ・水が最大の問題だった。中国のトイレは、ドアに鍵がない場合が多い。空港から天津市へ向かうときに立ち寄ったパーキングエリア(?)のトイレには、衝撃を受けた。手を洗う水道の蛇口のほとんど



がもぎ取られていた。私たちが泊まった寮の部屋の水は、最初茶色い水が出て驚いた。建設ラッシュで、建設と解体が同時進行で進み、空気が埃っぽかった。

もつと好きになろう

しかし、一週間を過ぎると、カルチャーショックへの戸惑いは消えた。中国の暮らしに慣れることができた。中国の文化・習慣を受容できた自分がいた。私は、中国語を吸収できることが楽しくなった。通じなくても、中国語をしようとする前向きになった。通じるまで頑張ってみようと思った。異国の地で、外国人である自分に慣れることができた。中国に愛着がわいた。中国をもつと好きになろうと思った。中国を好きになれば、より深く中国を知ることができると思った。

脱却・受容

デパートの飲食店街で食

事をしたときに、面白いことがあった。私たちが注文をした後、店員は商品を渡してくれなかった。店員に尋ねると、口の前で×をつくり、「シート」と言われた。

私は、話してはいけないという意味だと思い、非常に小さな声で「什么(何)?」と聞いた。しかし、店員は×のポーズをやめなかった。

その後、筆談も加えながら小さな声でやり取りを続け、やっと分かったことは10元(1元≒17.4円)のお釣りがあるとのことだった。

中国語で10はshi(シー)と発音する。10の指文字は



×である。私は、見当違いのことをしていた。小さな声で話す必要はまったくなかったのである。店員は、こそこそと話す私たちを、不審に思ったことだろう。

私が中国短期留学で経験

したことは、カルチャーショックとカルチャーショックからの脱却である。つまり、当初は中国文化に衝撃を受けたが、留学生活の中で中国文化を受容できるようになったということだ。

日本を離れ中国という地で、少数派である日本人として生活したことは、障害

も多くあったが、私のキャリアを伸ばす人生経験となった。



# 韓国

## に近づきたい を知りたい

### 韓国への短期留学

三年次 佐藤 淳美



いた人があまりにかっこ良かったことに大騒ぎしたり、車の速度に驚きました。韓国の国際交流部の先生のかわいらしさと優しさに感動しました。また、学校の寮が坂の上であり、みんな息を切らしながら荷物を運んだり、初日から楽しむことが出来ました。

韓国への短期留学。自分が学んだ韓国語を話してみたいという想いと、もつと韓国に近づきたい、知りたいたいという想いで参加を決めました。

今回の短期留学にはとにかく明るい三年生7人、好奇心旺盛な二年生2人、そして一番韓国で遊んでいたのではないかとと思う染谷先生が引率で参加されました。

出発前の成田空港では二年生の2人が違う便に乗る韓国人と仲良くなりました。到着後の仁川空港では警察の人に「マクドナルドはどこですか?」と韓国語で聞いて、通じたことと聞

できるように優しく韓国語を教えてくださいましたので授業で悩むことはなかったです。短期留学には北海道と神奈川の大学からも来ていたのですが、茨城は腕相撲大会では優勝、遊園地ではほとんどが絶叫系に挑戦しました。寮ではダンスパーティー・誕生日パーティーをしたり、廊下をパック姿で走り回ったり、海で暴れたり、お腹を壊したりと何をやるにも大騒ぎし過ぎるメンバーでした。今回このメンバーで韓国に行けて本当に良かったです。

韓国でお世話になった先生方、スタッフの皆さん、韓国に現在長期留学している千尋と千恵美、留学生のみんな、一緒に参加した他の大学のみんな、そして茨城のみんなのおかげで楽しくて一生思い出に残る韓国になりました。本当にありがとうございました。私は韓国が大好きです! ヨロブン カムサナムニダー!



# カルチャーショック連続!

## 中国短期留学を経験して

三年次 鈴木 敬子



# 任利先生インタビュー



今年から中国語担当の専任教員として赴任された任利先生のインタビュー、今回は完結編です。私達日本人の抱いている「中国人に対するイメージ」や「中国人の持つ日本人に対するイメージ」について先生自身のエピソードを交えて話していただきます。「編集部」

あなたはインチキ中国人！  
私は日本に来て「あなたはインチキ中国人」といわれました。なぜかというところから。出身は上海なんですけど、そのことでずいぶんひどいこと言われましたよ。「なんで中国人なのに餃子作れないの？ 中国人は全員餃子作るでしょ？」とかね。多分その人が昔接触した中国からの留学生はみんな餃子作れたんでしょ？

「でも私からすれば、餃子は家で作るものではなくて、屋台とかで食べるイメージだったので驚きました。ワントンなら作るんですけどね。やっぱり中国国内でも南と北の違いが大きいでしょうね。日本に来てからさらに中国の広さを感じま

した。  
ほかにもいろんなこと言われましたよ。私達は毎日お米食べるんですけど「中国人は饅頭食べるんじゃないの？」とかも言われたことあります。可笑しいですよ。そういう日本人たちの思い込みって面白いですよ。あと面白かったのは「素朴な質問なんですけど、中国の方々は本当にお酢をたくさん飲んでるんですか？」っていわれましたよ。「やずや」のCMとかよくやってますよね、日本に来てから初めて知りませんでした。中国では「やずや」自体聞いたことなかったですから。

自転車に乗れない中国人  
それから大学の先生に自  
転車をプレゼントされました。まあそれは親切にしてくれましたけど、私、実は自転車に乗れないんです。上海にいたころから移動はずっと電車でしたから。あと私達中国人は実際には冷たいお茶飲まないんです。それで夏にも暑いから熱いお茶を飲むのが中国の文化。あまり冷たいウーロン茶は飲まないです。とかウーロン茶自体を多分そんなに飲まないと思います。もし飲むとしたらやっぱり福建省とかウーロン茶を作っているところですよ。でも福建省から来てる同級生に聞いて

たら、ウーロン茶は全部輸出してるそうですよ。中国では南ではだいたい緑茶で北は花茶というのが主流です。日本では花茶はジャスマン茶として知られていますが、花茶の中には色んな花が入っているのでジャスマン茶≠花茶ではないんです。  
私の第一言語は上海語  
北と南についての話のついでに、私の出身は上海と

## 日本人の中国像 中国人の日本像

餃子・自転車・ウーロン茶  
戦争・電気製品・合弁企業

「一般に学校などで習う中国語はどこでしゃべられてる言葉なんですか？」という質問をされますが、一応中国全国で通用するように工夫して作られたものです。いわゆる「普通話」標準中国語です。  
学校で使う言葉  
家庭で使う言葉  
Q 学校で喋る言語と自分の両親と会話する時の言語が違うというのが日本人の感覚ではわかり

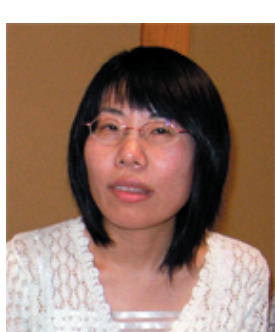
にくいのですが？  
学校で国語勉強しますよね？ 教科書の朗読しますよね？ 私はずいぶんに住んでいたころ小学生の女の子の家庭教師をしていたんです。その子は教科書を朗読する時は標準の日本語を使っていたんですけど、朗読が終わったら普通の茨城の方言に戻っちゃうんですよ。いきなりそのイントネーションが出てきて、なんでそうなるんですかと聞いたら「私達はいつもこういうふうにしてしゃべるんですよ」と言われて。日本人もそうなんですけど中国人にも同じことが言えます。やっぱり外国

人に言葉を教えるときはすごく人工的な言葉を教えているんですよ。まあそれでもそれが基礎としてしっかり、正しくきちんと出来ないといけないんですよね。応用出来てからこそのやとと中国人と同じような日常的な表現が使えるように、わかるようになるんですよ。きつと。  
Q 先生が日本に関心を向けたきっかけは？

た。中国にいた時から日本に行ったら富士山に登らなければならぬとか、それから京都にも行かなきゃとか、それから広島島の原爆記念館にどうしても行きたいとか思っていました。あとは長崎の日本が始めて外国を受け入れた場所、出島とかグラバー園とか。とにかくいろんな所に行きたいという気持ちでいっぱいでした。日本という国がどんな国なのか知りたいと思って旅行しました。

私は北京外国語大学に通っていた時に、日本の百合女子大学に一年間交換留学で来たんです。その時はかなり文化のショックもありました。けれどもその時の私はすごく若くて、貴重な体験をあまり大事にしなかったんです。今考えるとむしろ台無しにしたような気がします。  
私はその時は本当に一年間遊びました。一人で旅行して、京都・大阪・宝塚。あと熱海に行ったり、富士山にも登りまして、存分に一年間日本を楽しみました。

交換留学のとき東京の江東区の下宿に住んでいました。その大家さんとか同じアパートに住んでる外国人とか日本人は、私のイメージとは違うという気がして。  
中国人はほとんど日本を知らないんです。それで中国政府の宣伝で「日本はす





# 日本人に成りすましたいわけではなくて、日本の文化をより深く理解したいんです

「ごく怖い国」というふう  
に、ある時期になると戦争  
関係の映画を毎年放映する  
ので、とりあえず中国の小  
学生は「日本人は鬼みたい  
に怖い」とかあるんですよ。  
私は直接言われたことはな  
いんですけど、友達のおじ  
いちゃんの時代は日本兵に  
殺された親戚とか、すごく  
身近な話ですから。

だから外国語大学ですけ  
れども日本語学部はあまり  
人気がなかったです。交換  
留学の機会があっても誰  
も行きたくないという感じ  
だったんですよ。近所で噂  
されるみたいなのがあっ  
たり。私が大学に入ったの  
が93年なんですけど、そう  
いう雰囲気でした。

でも今は日本の会社が中  
国に進出してきて合併企業  
とかも出てきています。日  
本語が出来たほうが就職し  
やすいとか、日本の電気製  
品の説明書が読めるとか、  
あとスーパーには日本の製  
品がたくさん置いてありま  
すから、今は「日本語勉強  
したい、日本に留学したい」  
という学生はどんどん増え

ています。学生の親として  
も、英語の他にもう一つ外  
国語ができるなら日本語が  
魅力的という感じですよ。  
私達の親の時代はとにかく  
ロシア語を勉強したみた  
いんですけど、私達るときは  
何よりもとにかく英語とい  
う感じでした。今は小学校  
で日本語のクラスを設けて  
いる学校もあるくらいです  
よ。高校でも日本語コース  
が選べたり。それで今は受  
験のときに何語の試験を受  
けるか選べるんですよ。そ  
の中で日本語は英語に比べ  
ると易しいから日本語を選  
択する学生もいるみたいで  
す。

でも中国では未だに中国  
から出たら世界中で英語は  
通用するというイメージが  
あるみたいで。だから中国  
人の英語の先生は日本人が  
英語が喋れないというのが

すごくショックみたいで  
す。大体の中国の先生は外  
国なら英語が通用すると思  
い込んで、結局そういう  
簡単なことで悩んでるみた  
いです。

母語を教えるのもそう簡単  
ではない

中国では留学生に中国語  
を教えたことがあって。最  
初は中国語を教えながら  
「何か足りないな」という  
感じで、なんだか学生に嘘  
を教えているような気がし  
て、教員としてこれでいい  
の？とか思ってしまった。  
「自分の母語だけでもうまく  
説明出来ない」とか、外国  
人にどうやって中国語を教  
えたいのとか、相当悩  
みました。

それで01年に日本に来た  
一番大きな理由は、自分が  
もっと勉強したいと思った  
からです。で日本の筑波大  
学に言語学を専門とする方  
が多かったの、筑波大学  
を選びました。

日本の文化に溶け込む？  
日本人は外国人に対して

はすごく親切ですけど、で  
も外国人ができれば日本人  
になるように、そういうふ  
うに押しつけることがある  
みたいですよ。「任君が日本  
の文化に完全に溶け込める  
ように私達も努力してい

ます」と先生に言われたこ  
とがあって、私達もそれで  
反発しますよね。

もちろん大学だけではな  
くて、いろんな国際交流と  
かやってすごく感じたこと  
です。つくばには茨城県の  
国際交流協会があって、日  
中だけではなくていろんな  
国の人に来てコンサート  
やったりするんですけど。  
その時私は「日本人の目か  
ら見た中国とその真相」と

いうテーマで何回か話をし  
たんです。日本人から見た  
中国は表層の部分がなくて  
本当の中国はこうですよ  
と。例えば中国人は仲良く  
なったら礼儀は要らないと  
か、逆に日本人は仲が良く  
ても礼儀が必要だったり、  
きちんとお礼を言ったり、  
それは文化のギャップです  
よね。

本当は私達は日本人に  
成りすましたいわけではな

## 新たな興味や親しみが沸いてくる 上田武先生講演会

7月9日、言語文化研究  
所叢書の第二号として『陶  
淵明像の生成』（笠間書院）  
を上梓された上田武先生の  
講演会「中国の詩人の世界  
と陶淵明」が開かれました。

上田先生は本学文化交流  
学科の教員として、03年3  
月に退職されるまで、中国  
語や中国文化史の科目を担  
当しておられました。

講演会には、文化交流学  
科の学生や中国語履修の学  
生、また上田先生を慕う社  
会人の聴講生の方々が大勢  
詰めかけ、先生のお話に熱  
心に聞き入っていました。

上田先生は、まず中国の

詩の歴史について簡単に解  
説された後、六朝時代の詩  
人である陶淵明の生涯とそ  
の詩の特徴について、とて  
もわかりやすくお話しくだ  
さいました。

『帰去来の辞』を代表と  
する陶淵明の詩は、日本で  
も昔から、多くの人に愛さ  
れてきました。けれども、  
今回のお話で、陶淵明の生  
涯については謎が多く、本  
当に「陶淵明」という名前  
であったのかどうかさえ結  
論が出ていないということ  
を初めて知りました。

現在の文化交流学科の授  
業科目には、こうした中国

の古典文学についての講義  
がほとんどないので、学生  
たちには新鮮だったようで  
す。漢詩というとか堅苦  
しく、古臭いイメージがあ  
るかもしれませんが、中国  
では、小学校にまだ上がっ  
てもいない小さな子供が、  
かわいらしい身振り手振り  
を加えて漢詩を暗誦してく  
れます。中国の人たちに  
とっての漢詩は、かつての  
日本人にとつての、百人一  
首のようなものといっても  
いいでしょう。

日本の中国報道は、目覚  
ましい経済発展の光と影を大  
げさに言い立てるものが目

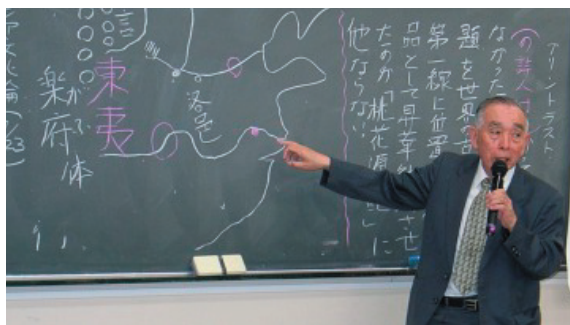
立ちますが、現代の中国は  
かりでなく、中国の古い文  
化にも触れてみると、中国  
のまた違った一面が見えて  
きて、新たな興味や親しみ  
が沸いてくるのではないで  
しょうか。〔志賀市子〕



上田先生は、まず中国の

講演会のあとの食事の席で

くって日本の文化をより深く  
理解したいんです。それが  
私がほんとうにやりたいこ  
とです。





# 就職活動

完結編

沼田 庄平

どうにかなるよ!

暑い夏も終わり、そろそろ就職という現実を目を向けていなかった三年生の人たちも、就職について気になりだしてきた頃だと思えます。私が就職を意識したのは去年の11月でした。バイト先の同級生に「就活始めた?」と聞かれてドキッとしたのを覚えています。

この頃から就職に対する不安を持つようになりまし。就職先が決まっていたバイト先の先輩に話を聞くと、「どうにかなるよ」と言われました。この頃の私にとつては信用できない言葉でした。しかし、今思えば就職活動のアドバイスの言葉は「どうにかなるよ」で間違っていないかと思えるようになりました。

さて、7月号ではまだ内定した企業がないという話をしてきましたが、その後二社から内定を頂くことができました。今回は不合格だった会社の面接はどこが失敗したのか、どうやってから内定が出たのかを自分なりに考えてみました。

が出なかった原因ですが、

一番の原因は面接の準備不足であったと思います。一社目の面接ではろくにネタも考えないまま面接を受けてしまったので、志望動機もはつきりしておらず、大失敗してしまいました。面接を受ける前まではその場で適当に答えれば大丈夫だろうと思っていました。甘い考えでした。面接一回目で非常に緊張した状態で、答えをその場で考えるのは無謀でした。私はその次の面接からは、面接の攻略本の「よくある質問」の自分の答えを書き出し、そして暗記して次の面接に備えました。

## 履歴書

二社目の面接では考えてきた答えを聞かれる質問が多かったため、あまり苦労せずに受け答えできました。しかし、これでも内定は出ませんでした。三社目の面接はようやく面接にも慣れてきて、あまり緊張せずに面接に挑むことができました。ここでも質問の答えには詰まることは無く、あっさり面接は終了したので結果はやはり不合格でし

## 面接

まず、私が6月まで内定

た。私はこのままではいけないと思い、自分のやり方に何か間違っていることがあると考えました。そして、分かったのは履歴書の内容が一社目の面接に使ったときからずっと同じ内容で書いていたことでした。不合格が続いているのに同じ内容の履歴書を使いまわしていたのでは勝ち目は無いと思いました。私は履歴書の内容を、面接官が興味を持つてくれる内容に書き換えました。

## アルバイトネタ

三社の面接を受けてきて、それぞれに受けが良かったのはアルバイトネタだったので、それを目立たせる履歴書にしました。そして、その履歴書で四社目の面接を受けました。面接官は私の狙い通り、アルバイトのことを重点的に聞いてきました。面接は私のペースで進み、面接の7割くらいはアルバイトネタの話でした。この面接はとも手ごたえがあり、この会社からは内定を頂くことができました。

五社目の面接でも同じような運びで話ができ、この会社でも内定を頂くことができました。このように内定が出たのは、自分が話せるネタを聞いてもらえたからだだと思います。自分が話せるネタを聞いてもらうには履歴書で

面接官の質問を誘導すればよいのです。無理をして印象の良さそうなネタを履歴書に書いても浅くしか話せないで、自分が考えて活動してきたことや苦労したこと、失敗したことなど、どんなに突っ込まれても話ができるネタがあれば面接官は興味を持って聞いてくれます。私の場合あまりメジャーではないアルバイトネタという点もあり、アルバイトネタが面接官の興味を引くことができました。

## 面接のパターン

私が受けた面接試験は大きく二つに分けることができました。それは、面接官が質問の内容を用意している場合と履歴書に書いてあることを掘り下げてくる場合です。

前者の場合は会話というより、質問について一方的に話さなければならぬので、話をまとめるのに苦労します。私はこのパターンが苦手だったので話に詰まってしまったことが良くありました。

そして、私が内定を頂いた会社の面接は後者の方でした。自分が得意としている話を聞いてもらえる後者の面接のほうが細かい話ができるので答えやすいです。それから、普通の会話のように面接してくれるので話が止まることはありません。

せん。面接のパターンについては運なので自分が入りたい会社がどんなパターンでも対応できるように、実践でいろいろパターンに慣れておくことが必要だと思います。

## 筆記試験

今回は面接試験に絞って話をしてきましたが、私は筆記試験で不合格になった会社もいくつかあります。筆記試験が通らなくて面接もしてもらえないのは面接もしてもらえないのは危険だと思います。少なくとも三社くらいは練習で受験しておいた方がよいと思います。

それから、本命の会社の面接試験を最初に受験するのは危険だと思います。少なくとも三社くらいは練習で受験しておいた方がよいと思います。

最後にこれから就職活動をする方に僭越ながらアドバイスをしたいと思えます。最初にもお話ししましたが、就職活動はどうかにか内定はもらえます。一発で内定がもらえる人もいますし、その逆になかなか内定がもらえない人もいます。なかなか内定がもらえなくても、人のことはあまり気にせずに、焦らずじっくりと就職活動をしていけば必ず自分なりの方法が見つかると思います。内定が出ないときは、とにかく実

際の試験を数多く経験することを勧めます。五社目くらいからは余裕で面接を受けられるようになります。就職活動という大変そうなイメージがありますが、いろいろな会社を訪問

## 編集後記

●うだるような暑さも和らぎ、過ごしやすい季節になってきました。これから秋まっさかりですね。秋には食欲の秋、スポーツの秋などいろいろあります。私は今年も文学の秋をしてみたいと思っています。書店で文藝春秋社から「はじめての文学」というシリーズで、山田詠美やよしもとばなななどの作家の作品集が出ているのを見つけてきました。すぐ読みやすそうなので、これは読みたい。学園祭に向けて楽器の練習もしつつ、読書をして秋の夜長も有意義に暮らせそうです。(佐々木美和)

●みなさん学園祭の準備は進んでいますか? 最近雨や曇りの日が多くて気温も少しずつ下がってきましたね。そういう天気ときは元気が出ないなあと感じている人も多いのではないのでしょうか? 私も時々そうですが、雨には雨の、曇りには曇りの「良さ」を開発することにしました。特に近頃のお気に入りには「雨の夜にジャズ」です。空から降る雨とジャズドラムの相性が良い! 夢中になって聴いていると自分も叩きたくなっでドラムスティックを買ってしまいました。誰か叩き方教えてください。(田中悠介)

したり話を聞いたりするのは意外と面白いです。これから、就職活動をする人はあまり不安にならずに、楽しんで活動してください。(ぬまた・しょうへい) 文化交流学科 四年次)

## 連絡

●私はよくススキのルアー釣りに久慈川河口へ出かけています。ススキは早朝や夕方、そして夜間に活性が上がりよく釣れます。また、河口は潮位も関係するので、潮位と時間を考えて釣れる時間に行くようにしています。久慈川は那珂川や酒沼川と比べると、数多く釣れるわけではありませんが、家から近いので毎日のように通っています。先日釣った魚は65センチでした。これから冬にかけてもっと大きい魚が期待できると思っています。(沼田庄平)

●秋、小中学校では運動会が一大行事です。運動が得意でない私もかつては大はしゃぎ。でも一番の楽しみはお弁当でした。家族で食べるお弁当(しかも学校ではおいしい思い出です。年を重ねる毎に学校行事が減ってきました。ちょっと寂しい。でももうすぐ大イベント、学祭です。大いに楽しみたいと思います。(戸田亜希子)

●編集部では皆さんの感想や「こんな記事がほしい」などの意見を随時受け付けています。もちろん編集に参加してみたい方も募集中です。詳しくは左記までご連絡下さい。

rongorongo\_hensyubu-owner@yahoo.co.jp

「ロンゴロンゴ」とは南太平洋ポリネシアのイースター島で音作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていません。これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。